

コープぎふ様ご来社



玄関ホールにて記念撮影。(右より) コープぎふの [] 部長、 [] 常務理事、 [] 理事長、 [] 専務理事、弊社の [] さん、 [] さん

七月二十二日に生活協同組合コープぎふの理事長、専務理事、常務理事、商品活動推進部長が来社されました。来社の目的は、地元企業との交流拡大を職員の方や組合員さんと共に行なっていきたいことと、改善活動や部内報(社内報)などを学びたいとのことでの来社でした。はじめに、今後の交流の取り組みについて話し合いをさせていただきました。その後工場見学をされました。コープぎふの皆様は、とてもあたたかな気分で帰られました。

工場見学で [] さん(右端)の改善事例の説明を熱心に聞かれるコープぎふの皆様



鍵山秀三郎さんに学ぶ

「^{ぐち}愚痴」と「^{みれん}未練」

いつまでも「愚痴」と「未練」の世界に閉じこもらなかったのが、こんにち生き残ってこられた大きな理由。

『一日一話』鍵山秀三郎著より

虫よけアロマミスト
「ナチュラルハーブバリア」



ゴキブリ追放宣言

『私が一番受けたい「いのちの授業」』



清水 勝己

鈴木中人さんが書かれた『私が一番受けたい「いのちの授業」』という本を読みました。

内容は、鈴木さんの家族は普通に暮らしていましたが、突然三歳の長女景子ちゃんが、小児がんを発症します。医者からは治る確率は十五%と言われ、「なんで景子ちゃんが、どうして俺がこんなことになるんだ」そんなことばかり考えていましたが、「絶対に助ける」と自分に言い聞かせ、辛く苦しい闘病生活が始まります。しかし病状は回復せず、やがて余命宣告を受け、子供が近く死ぬことを分かっています。

家族の願いもむなしく、六歳で亡くなることになりましたが、景子ちゃんの「お嫁さんになりたい」という夢を叶えるためにウエディングドレスとカツラをプレゼントします。その写真を遺影に使うと覚悟を決め、見送っていく鈴木さんの思いやエピソードには胸が

詰まりました。景子ちゃんが亡くなった十年後、会社を早期退職して「いのちの授業」を各地で始め、多くの人に命の大切さを訴え続けている鈴木さんの行動に感動しました。

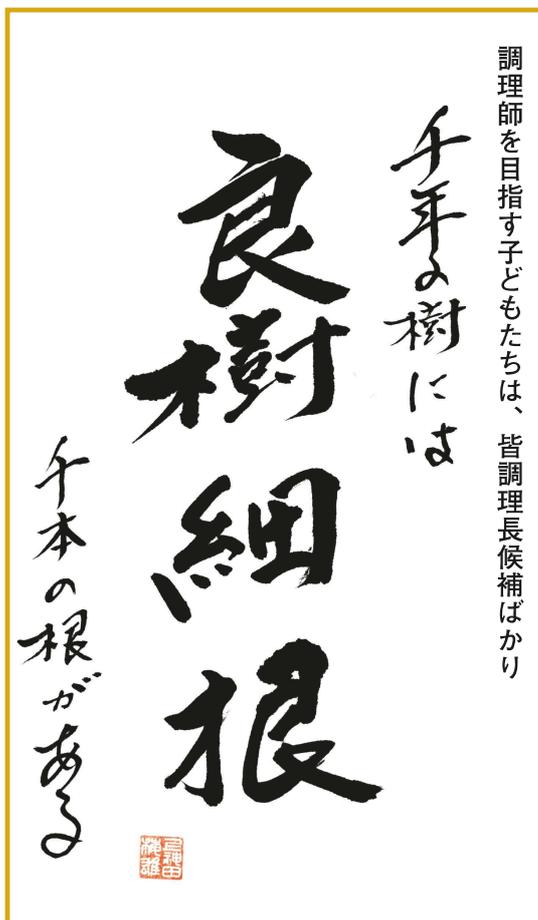
この本を通じて、改めていのちの大切さや、生きるとはどういうことなのか、幸せとは何なのかなど、いろいろなことを考えさせてくれるおすすめの一冊です。ぜひ、皆さんも読んでみてください。限りある「いのち」だから…。



上神田梅雄さん（新宿調理師専門学校・元校長）に学ぶ

『調理師という人生を目指す君に』 上神田梅雄著

調理師を目指す子どもたちは、皆調理長候補ばかり



立派な木は立派な根をもっている

養成施設に学びに来てくれた調理師の卵である生徒たちは、例えるなら樹木の苗木のようなものです。

生徒という苗木を将来の大樹に育てるために、しっかりとした根っこ、つまり人としての優しい心根を養い、人としての礼儀を身に付けさせる。

一流の調理師を目指す前提として、立派な社会人であることが肝要です。それは社会的地位が高い、学歴が高い、お金持ちである、などということではありません。

「嘘をつかない・騙さない・苛めない・裏切らない」といった倫理・道徳を覚えていて、人生に対する心構えが「人として立派」であるということです。見えている部分がいくら大きく派手になっても、細い根の張っていない樹木は、環境が厳しくなると、たちどころに萎れてしまいます。

学校は、目に見える幹や枝を派手に伸ばそうとする所ではなく、見えないけれども、重要な細い根を伸ばす所であればなりません。